自己評価 (夢空ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や運営方針を踏まえたスローガンの事業所理念をつくり、実際のケアに繋がっている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺地域関係者の訪問や学生の体験学習の受け入れ、保育所運動会への招待参加などを通して交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族への状況説明と相談、運営推進会議、学生の職場体験学習者の受け入れ、利用や見学の問い合わせに対する支援などをとおした貢献に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や生活の状況、自己・外部評価の実績報告などを行いながら地域を代表する参加者から意見を頂いている。会議には介護職員も出席し会議で出た意見の議事録を回覧している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月始め、入居者の変動、利用者の介護認定更新手続き支援などで担当部署を訪問している。これ以外にも随時訪問したり、訪問や電話連絡を受けたりした関係をもち情報の交換を図っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規採用者は初期段階で教育を実施している。又、職員全てに資料を配布して周知徹底を図り防止に取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を作成配布し教育を実施。及び「高齢者虐待対応マニュアル」を常設し日常的に職員同士が互いに監視しあい虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的知識として教育を実施し、専門知識者として県研修に随時申し込み理解者の人材育成を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項や契約内容の説明を十分に行なっている。そこでは家族の不安や疑問に対して回答説明し、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会都度、利用者の状況報告を兼ねて要望や意見を聞き入れている。又、家族アンケートの実施と公表、運営推進会議に家族代表者に参加していただき意見をもらっている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングには運営を代表する者が必ず出席し、意見交換や検討の場としている。解決に時間を要する案件に対しては、運営者・管理者が中心となり解決に向け努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年々処遇面など様々な改善に努めているが、更なる好条件となるべく検討を図りたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回階層別に教育(研修)ニーズ計画を作成している。これとは別に生じた身近な研修や教育訓練は報告書の提出をする仕組みになっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市などの同業者と協力関係があり電話連絡や職員交流などにより情報交換を図っている。又、同業者が主催する研修事業に参加させてもらうこともある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>積極的に働きかけ不安や思いを引き出すよう努め、悩みや不安な事柄への解消に向け取り組んでいる。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族の思いに耳を傾け、提案や助言を都度行っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族や本人が抱えている問題を把握する為、家族面接、本人面接、関係機関の話を聞き必要なサービスを提案している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生育歴や生活歴を踏まえ得意そうな事、苦手な事を見極め生活の中に役割を見出せるよう配慮を行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族対応による通院、家族希望の外出や外泊の支援をし、注意事項の伝達や出先での状況を聞く関係を図っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の方や友人の面会があり本人に楽しんでいただいている。又、家族に相談して本人が希望する場所への外出提案などをさせてもらっている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>行事や買い物、余暇活動を通じ、互いの関係把握に努め食卓の席替えなどを行なって利用者同士の関係に支障が生じないように配慮している。</p>		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の状況報告を兼ねて来所され相談を受けたり、他の関係者からの情報収集を図りながら関係維持に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や要望を雑談を交え聞いたり、家族へ協力を仰ぎ思い等の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生育歴等の経緯、経過を把握し現生活に生かせる様、努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活でいつもと違った言動や行動を記録して共有し、定型化するような場合には職員ミーティングの場で支援の方法を検討している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を踏まえて課題を抽出し、本人、家族、医師、職員の意見を反映させた計画を作成している。月1回の職員ミーティングでは利用者個々の状況を話し合い介護計画見直しの要否を図っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別でのケース記録や介護経過への日頃の生活状況の記録や伝達ノートを活用し情報を共有し介護計画へ反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人資源(車両、物品、職員配置等)を活用した支援や身体状態に応じ訪問歯科や往診による診察を受けられ、空き部屋があれば、必要に応じ短期入居利用も可能である。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署職員からの指導を受けての避難訓練の実施、ボランティア訪問、保育園との行事交流を行っているが、地域資源の種類や状況が分からず積極的な活用は不十分に思われる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に経緯、経過を把握している。かかりつけ医との関係の継続をすすめ状態により医療機関との相談を図っている。年1回かかりつけ医にて健康診断を実施している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はない。協力医の定期的な往診があり、必要に応じて相談を図り指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活内容や医療情報を提供し面会に赴き状態の確認や情報提供を行い、混乱や不安がなく治療が受けられる支援を行い、退院時には生活に支障をきたさない様、医療機関に相談を図り指示や助言を受けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について家族の要望や希望を加味して、かかりつけ医と協議し状態に応じた協議を都度図っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の体制はマニュアルを備え付けている。より専門的に職員は救急救命講習に順次参加し技術の習得を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難の要支援者施設として市行政の防災マップに登録されている。火災避難訓練を年2回実施しているが、地元住民の参加や協力体制について再検討する必要がある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した言葉掛けを常時心がけ、失敗があっても責めたりせず接し、記録等の個人情報に対しても注意を払っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己実現が図れるよう個々の状態に応じ説得ではなく納得して活動が出来るよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や要望、健康状態に応じ個別ケアの提供を心がけているが時間帯により答えられない場合は、納得して頂けるよう説明を都度行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む身だしなみで生活が送れるよう要望により理美容院への外出支援や衣類購入支援活動を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が順番で好みや栄養に応じた献立を作成している。職員と利用者が協働できる献立作りや調理の工夫がなくなってしまう食材品の購入同伴の機会が減っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し献立を作成し個々の状態により食物形態を変え飲食状態の観察を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、状態により介助して口腔衛生に努め、夜間は義歯を預かり洗浄を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握に努め状態に合わせて排泄の誘導や促しをし極力トイレでの排泄に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状態に合わせた運動の促しや飲食物の工夫を行い、かかりつけ医に都度相談を図っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々の状況や状態に応じて入浴・清拭・着替えを毎日行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態により休息の促しや安眠できるよう寝具、室温、環境に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用のタイミング毎に分包配薬した服薬支援を行っており、全入居者の服薬に関する用法・用量・作用を事務所に掲示し全職員が都度確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じて家事の軽作業や掃除などを、お願いしている。又、嗜好品の家族持ち込みや購入の支援、及び季節行事やホーム行事を取り入れて気分転換の図れる生活を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキを利用した日光浴、お茶会、昼食会やミニドライブなどを開催して戸外に出る機会を作っている。又、家族対応での受診、外出、外泊への協力支援を図っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(夢空)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力に応じ自己管理や施設での管理を個々で行ない、希望や要望に応じ買い物の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状态的に問題(固執や執着)なければ、基本的には自由で通信の手助けを行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の花や装飾により季節感や共有の話題ができるように環境を整備し、個々の余暇時間などに、作成した作品を飾り個々の話題作りにも配慮を行なっている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に椅子やソファを設置し、思い思いに過ごせる場作りをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や見慣れた物、思い入れがある品物を家族等の協力を仰ぎ、居心地の良い空間の整備に努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々が身体能力を活用して生活が出来るよう工夫や配慮を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所